

2021年度公益財団法人日本芸術協会奨学金 第2回活動報告書（2022/01/18）

村上祐介（indust-film、映画制作）

2021年度も引き続きコロナ禍でしたが、「portrait(s)」の制作を進めました。
また、文化庁の助成金の採択を受ける事が出来、関係者向け上映会を行いました。
演者含めて大きな怪我やトラブルなく1年を終える事が出来て良かったです。
奨学金対象者に選んでいただけた事、とても励みになっております。
ありがとうございます。

<新作ドラマ「portrait(s)」の第3話を公開しました>



セクシャルマイノリティー(LGBT)の多様な人が登場する日常生活を大切にした
連続ドラマ「portrait(s)」の第3話を2021年9月にYOUTUBEにて公開しました。

<https://youtu.be/reVUXQZ0d5A>

第3話では副題を「セルフケア」と題して、親と同居する50代のゲイ男性という、日本ではあまり描かれてこなかった人物がメインに登場します。

セクシャルマイノリティーは身近にはいなくて、テレビの中にだけいると思っている方も少なくないと思うのですが、この作品ではもしかしたら隣の席の人はそうかもしれないと身近に思えるような、誰にでもある日常を生きるセクシャルマイノリティーを描きたいと思いながら制作しています。

ドラマティックではないかもしれませんが、中年ゲイが登場する日常のドラマが作れて、達成感を感じました。まだまだドラマは続いていきますので、この喜びをエネルギーにして頑張りたいと思います。



コロナ禍なので撮影場所を探すのに苦労していますが、エピソードが完成する度に多くの方のご協力を得て作品制作が成り立っている事を痛感しています。

現在4エピソードを公開中ですが、回を重ねる毎に「待ってました」などの反響を頂けるようになってきました。このような反響とコメントを頂けた事は、もちろん僕もですが、演者もとても励まされていると思います。



多くの方に作品を観てもらえている事がとても励みになっています。

＜文化庁の助成金の採択を受ける事が出来ました＞

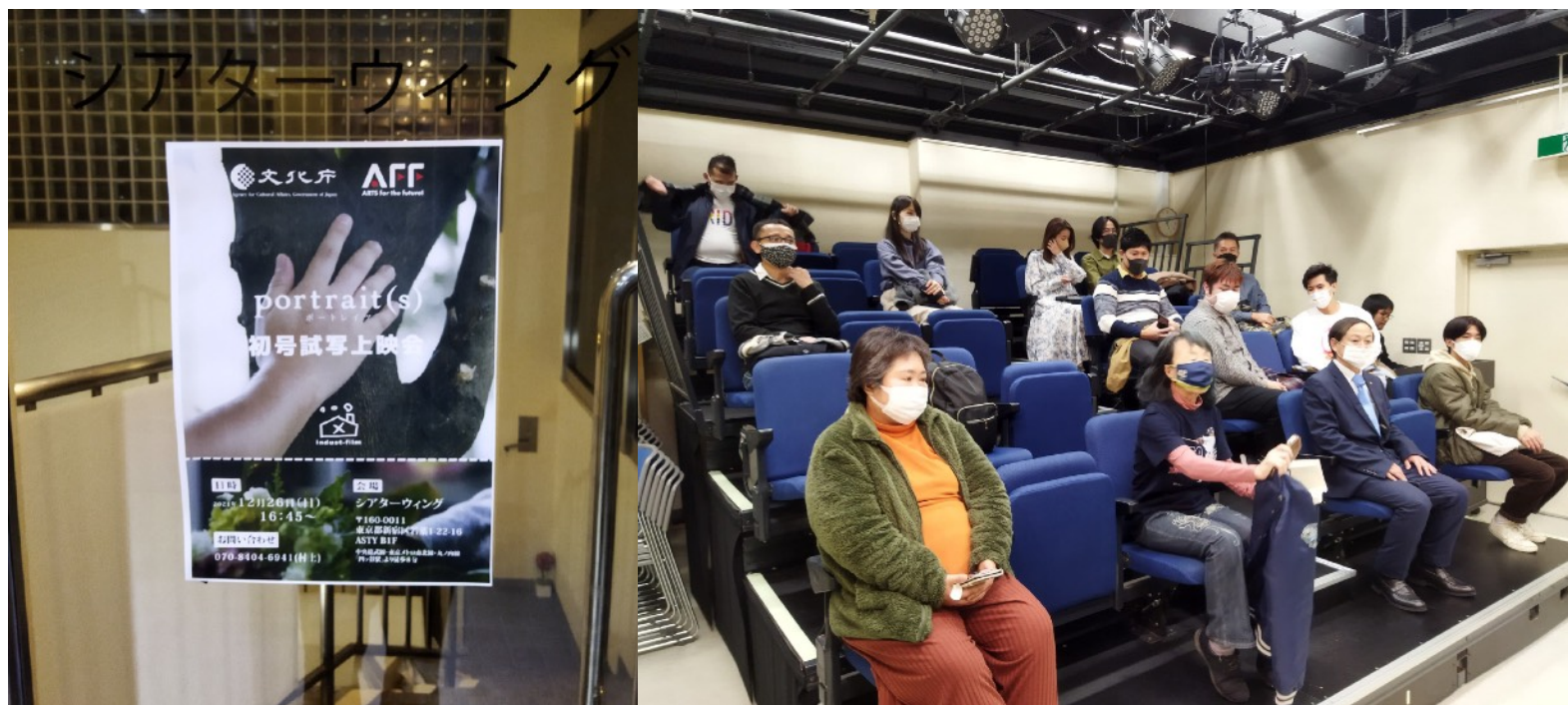


文化庁の「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業（ARTS for the future!）」に9月頃申請しました。

2020年から日本芸術協会様の奨学金も活動の資金に充てさせて頂いていますが、2006年の活動開始以来、すべて自己資金で映画制作を行なってきました。それはインディペンデントである事で、作品のコントロールと著作権を守っていくのですが、今取り組んでいる「portrait(s)」は長期的に撮影を行っており、予算の確保が難しい状況でした。クラウドファンディングの実施も考えているのですが、並行して助成金なども勉強している中で今回申請を出してみました。なかなか審査結果が届かないので半ば諦めていたのですが、11月に修正なしの1発採択を頂きました。そこで、予算が確保出来た分、今まで出来ていなかった場所での撮影を一気に年末まで行いました。そして急いで編集をし、今回の助成金制度では映倫番号の取得が必須であったので、初めて映倫を訪ねて申請を出しました。年明けには請求書などをすべて整理し、実績報告を文化庁に提出しました。無事何事もなく交付される事を願っています。



<関係者試写上映会を行いました>



2021年12月26日に四谷のシアターウィングにて「portrait(s)」の関係者向け試写上映会を行いました。

「portrait(s)」は群像劇なので、長く撮影していますが、演者が集まる機会がなく、今回の上映会は忘年会の意味でも行なって良かったです。

また、「撮影時にはよく分からない中で演じていたけど、繋がった作品を観てとても良かった」「良い作品に関われて嬉しい」との演者の方からの言葉を頂きました。僕自身も、改めて、映画はスクリーンで観るものだの実感出来た上映会でした。

制作のスピードがスローペースである事に悩んだり、落ち込んだりする事が多々ありますが、1年を振り返ってみると、3つのエピソードを仕上げて公開する事が出来ました。そして助成金を得て、音楽を制作してもらい、映画として仕上げる事が出来ました。出来た事を振り返る事が出来る機会として、この実績報告はとてもありがたい機会になっています。2022年はさらなる活動が出来るよう、村上を支援して良かったと思ってもらえるような作品作りをしていきます。

